

山形市野草園からのお知らせ



紅葉に染まり始めた「中央広場」

(○抜きは、本園で最後に咲く花「マルバノキ」)

野草園は紅葉が進み、秋の日差しに照らされて彩り豊かな姿を見せ始めています。「友好姉妹都市の庭」では、「コスモス」や「センニチコウ」などがまだまだ咲いていて、野草園で最後に開花すると言われている「マルバノキ」の花も咲き始めました。他にも、ちょっと目をこらせば、面白い形の冬芽や美しい実などを観察することができ、花とはまた違った楽しみがあります。

「学習センター」内ではペレットストーブで暖がとれますので、寒いと言って部屋に閉じこもらず、是非ご家族でお出かけ下さい。心も体も軽くなりますよ。お待ちしております。

11月の予定

～

冬期休園中の予定(12～3月)

◆「バードウォッチング」

講師：嵐田 稔 氏

○日 時 11月11日(土) 午前9：15～11：15

○内 容 講師の案内で、双眼鏡などを使って野鳥を探します。心地良いさえずりを聞かせてくれる可愛い小鳥たちを、何種類見つけられるでしょうか。 ○対 象 先着20名。

○申込み 電話で野草園(電話634-4120)まで。(費用：入園料のみ)

○持ち物 防寒着、双眼鏡(野草園でも貸し出します)

◆「ガーテニング教室」

講師：有限会社花のひこうき 戒野 日出男 氏

○日 時 11/18(土) 10：00～12：00 ○場 所 自然学習センター内

○内 容 秋から春まで咲き続ける「ビオラ」を使った“ハンギングバスケット”づくり。

○申込み 電話で野草園(電話634-4120)まで。先着15名。(費用 3200円：入園料別)

◆『ガイドウォーキング』

○日 時 11／3(金・祝) 5(日) 12(日) 19(日) 23(木・祝) 26(日)
1回目 10:00～11:00 2回目 11:00～12:00 3回目 13:00～14:00 4回目 14:00～15:00

○内 容 野草園職員が野草園内を一緒に散策し、案内・説明します。申し込み不要、参加費無料。

◆第24回野草園の魅力を探る『写真コンテスト』入賞作品展

○日 時 開催中～11／23(木・祝) 9:00～16:30 ○場 所 自然学習センター内

◆【四季観察会 ④】平成30年2月13日(火)10:00～12:00 樹木と冬芽 講師:志鎌節郎氏、佐竹恵一氏

◆【四季観察会 ⑤】平成30年3月16日(金)10:00～12:00 早春の植物 講師:志鎌節郎氏、佐竹恵一氏

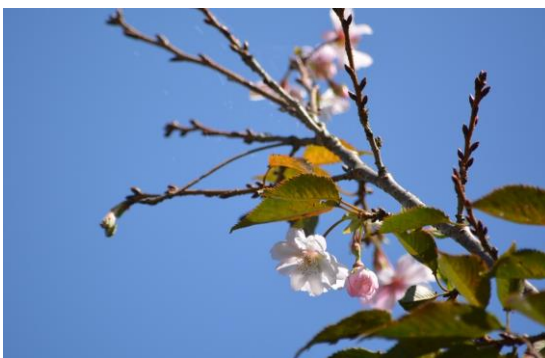
★★★ この時期見られる花や果実、紅葉 ★★★



台湾ホトトギス(ユリ科) 沖縄県などの亜熱帯地域の山地や森林の湿った場所に自生し、高さは30～50cmになります。和名は、斑点が入る花を、鳥のホトトギスの胸の模様に見立てたことに由来します。園芸用に品種改良されたものが多く栽培されていますが、本種は台湾ホトトギスと本州・四国・九州に自生するホトトギスの交雑種とされます。
※「吉林の庭」



ツルシキミ(ミカン科) 本来の花期は3～5月ですが、野草園では毎年秋にも開花します。高さ50cmほどの雌雄異株の落葉小低木で、基部は地上を這います。直径5～8mmの球果が赤く熟した近くに白色～淡紅色の花を円錐花序に密につけています。花弁は4個で、長さ4～5mmの長楕円形の可愛い花です。
※「マグノリア通り」



ジュウガツザクラ(バラ科) コヒガンザクラの園芸品種で春と秋の2回花が咲きます。通常小木で、樹皮は暗灰褐色、若枝、成葉、葉柄などに毛があります。葉は互生し、倒披針形で質はやや厚いようです。花は淡紅白色で八重咲きです。名は十月桜で、秋から開花するからです。秋に咲く花は小形です。野草園では冬には休んで、また春に咲き始めます。
※野草園入口周辺



コスモス(キク科) メキシコの原産で、観賞用として花壇などに植えられる1年草です。茎はまばらで直立し、葉は対生し2回羽状に分裂します。茎の上部に白色、淡紅色、深紅色などの花を開きます。頭花は周辺に8枚の舌状花がならび、これが花色を表します。中心には黄色の管状花が多数集まり結実します。コスモスは学名の属名そのままです。
※「スワンヒルの庭」周辺



センニチコウ(ヒユ科) 古く日本に入ってきた園芸用の草花で、よく庭園に植えられていますが、実は熱帯地方原産の1年生草本です。高さ50～80cmの茎先に径2cm程の球状の花を1個付けます。花は、色のついた翼のある2個の小苞に包まれた“多数の小花、からできていて、小花は普通紅色ですが、まれに淡紅色、または白いものがあります。名は花が長持ちするからです。 ※「スワンヒルの庭」近辺。



メクスリノキ(ムクロジ科)の紅葉 国内だけに自生する雌雄異株の樹木。葉の長さは5～13cmで、3枚の小葉からできています。戦国時代に樹皮を煎じた汁を目薬にした民間療法から名がついたようです。写真のように、紅葉の赤はかなり鮮やかな赤です。 ※園入口正面など。



オオバクロモジ(クスノキ科)の黄葉 本州～九州に分布する、高さ5m程度になる雌雄異株の落葉低木。緑色のすべすべした肌に、次第に黒い斑紋がでることが多く、“黒文字、”の名の由来となっています。葉や枝には芳香があるのが特徴です。冬芽は、真ん中に葉芽、周りに数個の花芽を持った独特の形で、ムシカリの冬芽と対照的な形です。

※「友好姉妹都市の庭」近辺など。



ドウダンツツジ(ツツジ科)の紅葉 高くなっても3m程の落葉広葉樹低木。本州～九州の温暖な岩山に生えますが、自生地は少ないようです。葉は菱形に近く、大きさは通常約2cm、大きなものは、約5cmになります。新緑、花期、紅葉と見時があります。秋は真っ赤に紅葉し見事です。「ドウダン」は、枝分かれしている様子が昔夜間の明かりに用いた灯台（結び灯台）の脚部と似通っており、その「トウダイ」から転じたものです。 ※「中央広場」植え込み。

※この時期に見頃な紅葉のカエデの仲間。後述の視点で大体見分けられるようです。



左：ヤマモミジ…北海道から本州の日本海側に分布。イロハモミジの葉より大きく、7つか9つに裂け、鋸歯は粗くて大小二重になります。

中：ハウチワカエデ…九州～北海道などの寒い地方のブナ林に生育します。大きくて丸い葉は、“メイゲツカエデ”とも言われます。葉柄は短くて、毛が多いのが特徴です。

右：イロハモミジ…本州の太平洋側～九州に分布。葉はムクロジ科では最小、切れ込みは深く、裂片は細いのが特徴です。翼果が葉よりも上部にできるようです。

※ 切れ込みの深さ、葉身と葉柄の比率、鋸歯の様子 などでおおよそ判別できます。



サラサドウダン (ツツジ科) の紅葉・果実 白いドウダンツツジと花の形は似ていますが、壺形にならないで先が広がり鐘形の点や、花の大きさが違います。花は淡紅白色で紅色の縦の筋があります。花後の果実は垂れ下がらないで上向きになり、早めに色づく秋の紅葉は深紅できれいです。

※「中央広場」「ツツジの丘」周辺。



ナツハゼ (ツツジ科) の果実 高さ1～3mの落葉低木で、枝先に長さ4～5mmの鐘形の花を付けます。花冠は浅く5裂し、裂片は少し反り返ります。葉は互生。黒く熟した果実は直径4～6mmの球形の液果で表面は光沢があり、甘酸っぱく、山のおやつとして食べられます。北海道～九州の山地に分布します。

※「吉林の庭」近辺など。



ウメモドキ (モチノキ科) の果実 雌雄異株の落葉低木で、秋になると、雌株は生け花には最上級の花材となる美しい実を付けます。春には、葉腋に雄花は多数、雌花は数個つきますが、紫色で花径も3、4mmなので目立ちません。本州～九州に分布し、湿原の周辺などの湿った場所を好みます。モチノキ科の植物には常緑のことが多いのですが、ウメモドキ・アオハダなどの数種が落葉です。

※「吉林の庭」近辺。



クマノミズキ (ミズキ科) の果実・果柄 樹高8-12mの新枝の先に、径8-14cmの真っ白い小花の散房花序をつけます。花は白色4弁花で雄しべが長く、フワッと柔らかい感じに見えます。楕円形の葉が対生するのがミズキとの違いです。果実は径5mmほどの紫黒色の球果です。果実よりもサンゴ色した果柄が目につきます。和名は、三重県熊野に産するミズキの意味。

※「ナナカマドの森」など。



ツルリンドウ (リンドウ科) の果実 山地の木陰などに生えるツル性の多年草。草木にからんで長さ 40～80cm になった細長い茎の葉腋に、ラッパ型の花を付けます。花冠が淡紫色で先は 5 裂し、花冠の長さは 2.5～3 cm。対生する卵状披針形の葉は有柄で、葉脈が縦に走るように見えるのが特徴です。果実は液果で、残存する花冠の上に突き出し濃い紅紫色に熟します。
※「大平沼」南東側など。



クサギ (シソ科) の果実 日当たりのよい山野の林縁や沿海地に生える落葉の小高木です。花は、芳香のある白花を多数つけます。花の後、萼はこのようにきれいな濃紅色になり、深裂して星状に開き、中央に藍色の果実をのせます。花も見ごたえがありますが、萼と果実のコントラストもきれいです。名は臭木で葉に臭気があることによります。

※「東トイレ」「大平沼」南東側。



ムラサキシキブ (クマツツラ科) の果実 低い山地や野原に生える落葉の低木です。葉は対生し、楕円形で縁には鋸歯があります。葉の付け根から集散花序をだし、多数の淡紫色の小さな花をつけます。萼は短い鐘形で浅く 5 裂し、花冠は先が 4 裂します。今、球形で紫色に熟した果実を付けて、見る人の目を楽しませてくれます。コムラサキは花序が葉腋より少し上部につくことで区別できます。 ※「木道」など。

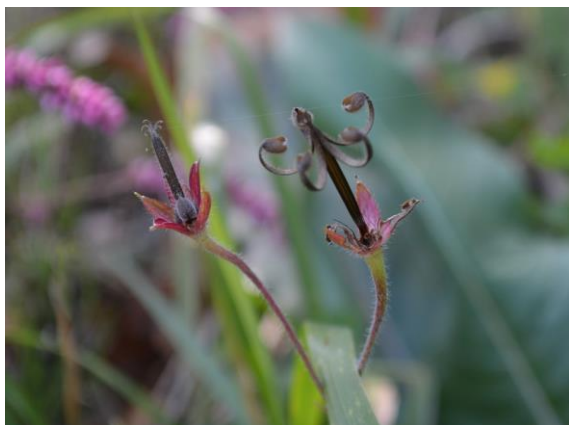


ツルウメモドキ (ニシキギ科) の果実 日本を含め、東アジア一帯に自生する落葉つる性の木本。伸びた枝の先に、黄緑色の花を集めて付けていましたが、今は、淡黄色に熟した果実がはじけ、3 つに裂開し、その中から赤い種子が見えています。その姿がきれいなので、生け花の材料によく使われます。
※「園入口」「大平沼」南東側など。



アフラツツジ (ツツジ科) の紅葉・果実 本年枝先に輪生状に集まった葉の裏面は光沢があり、油を塗ったようであることから和名が付きしました。春に見られる緑白色の壺型的小花は垂れ下がって咲き、余り目立ちませんが、秋には鮮やかに紅葉しとても目立ちます。又、径 2～3 mm の果実は黄金色に輝いて綺麗です。

※「マグノリア通り」に植栽。



ゲンノショウコ (フウロソウ科) の果実 昔から下痢止めの薬草として有名で、煎じて飲めばたちまち実感することから「現之証拠」と薬効の表現から名付けられたとされています。日本では北海道～九州の山野などに自生し、茎は約30～40cmに伸び、葉は掌状に分かれます。花弁が5枚に分かれた紅紫色または白紫色の花が夏に咲きます。秋に種子を飛散させた後で果柄を立てた様子(写真)が、神輿のように見えることからミコシグサとも呼ばれます。※園内のあちこち。



サンシュユ (ミスキ科) の果実 中国原産の落葉高木で、江戸時代に薬用植物として渡来しました。春、葉が開く前に淡黄色の小さな花をたくさんつけるので“春黄金花”と言われますが、秋は赤く熟す果実から“秋珊瑚”の別名があります。果肉を乾燥したものを強壮、強精などの薬用に、果実を果実酒にします。 ※「吉林の庭」に植栽。



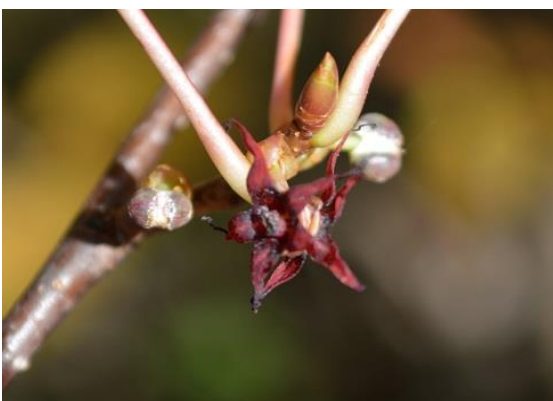
メキシカンブッシュセージ (シソ科)

宿根サルビアの仲間では“アメジストセージ”とも呼ばれます。草丈は60～150cm、8～11月と花期は長く、綿に包まれたような青紫色の小花をたくさん付けます。 ※「ハーブ園」



ガウラ (アカバネ科)

北米に分布し、高さは60～120cm、6月から10月に総状花序を出し、白い花をたくさん咲かせます。この花の形が蝶が舞うように見えることから“白蝶草”の名が付けました。暑さにも寒さにも強く、長期間目を楽しませてくれます。花の大きさは、1.5～4cmほどです。 ※「ハーブ園」



マルバノキ (マンサク科) 山地に生える落葉低木です。葉は互生し、卵円形または円形で基部は心形です。秋には美しく紅葉します。葉の脇に、暗紅紫色の花を2個背中合わせに開きます。花弁は5枚あり、星形に平開します。マルバノキはその葉が丸いことに基づき、別名ベニマンサクはその花が赤色であることに基づいた名前です。野草園では、シーズン最後に開花する花です。 ※「ログハウス」裏。